

「事業名：東北大学の復興知を活かす葛尾村の創造的復興」 平成30年度補助事業の実績・成果

東北大学 連携市町村：葛尾村

連携市町村との協定締結日：平成28年10月21日

現地拠点：双葉郡葛尾村大字落合字西ノ内50(葛尾村立葛尾中学校1F)

事業のポイント

本事業の今年度の目標は、要約すると次の2点であった。①東北復興農学センターの受講生に加え、東北大学の学生・留学生・研究者を対象とする。②(バックヤード・アダプション・アタックの)3つのフェイズを順序的に、繰り返し実施し、確度の高い取り組みを実現する。

今年度の活動実績

・1月12日葛尾村で現地活動。

目的 葛尾村への順応、次年度活動に向けての現地踏査。

参加人数 大学側 教員等 6名参加

(本学渡邊教授・大村助教・大磯補佐員・坪井補佐員、東北工業大学松田教授、宮城教育大学鶴川教授)

社会人 8名参加(東北大学職員・自営業・ポスドク等)

・1月25日葛尾村・浪江町等での現地活動。

目的 葛尾村・浪江町等における現地踏査を通じ、外国人留学生への教育コンテンツを整備する。

参加人数 大学側 教員等 2名参加(本学大磯補佐員・坪井補佐員)

本学学生 18名参加(いずれも海外からの留学生)

今年度の成果

ITを軸とする連携体制としては、本事業を機に在仙の主要大学(宮城教育大学・東北学院大学・東北工業大学)と、本学大学院農学研究科との連携の基礎が整った。

また、これと並行して、葛尾村の小中学校との連携(教育カリキュラムの提供等)や、他大学との単位互換についても2020年度の実現を目指して調整に入っている。



本事業の概要

- ✓ 東北復興農学センターの受講生に加え、東北大学の学生・留学生・研究者を対象とする。□
- ✓ 3つのフェイズを順序的に、繰り返し実施し、確度の高い取り組みを実現する。□

③ アタック・フェイズ□

プロジェクトアウト活動□
葛尾村のプレイヤーとともに、新しい地域課題解決策=ビジネスモデルにチャレンジする。□

② アダプション・フェイズ□

- 葛尾村の住民と交流する。□
 - 交流を通じ、地域課題を認識する。□
 - 自分たちのアイデアを自己点検する。□
- 頂上(プロジェクトアウト)を見据え、プロジェクトエリアに順応する。□

① バックヤード・フェイズ□

- 東日本大震災についての学び。□
- 東北復興に関する学び。□
- 地域課題に関する学び。□
- 新しいアイデアの検討。□
- 分野横断的なシエーズ検討。□



研究者・留学生・社会人など多様なバックグラウンドを持つ参加者□



東北復興農学センター等、東北大学が持つ復興知を葛尾村に生かすためのワークショップ。□

入念な事前準備。□